2024. 5. 31

ual: central saint martins

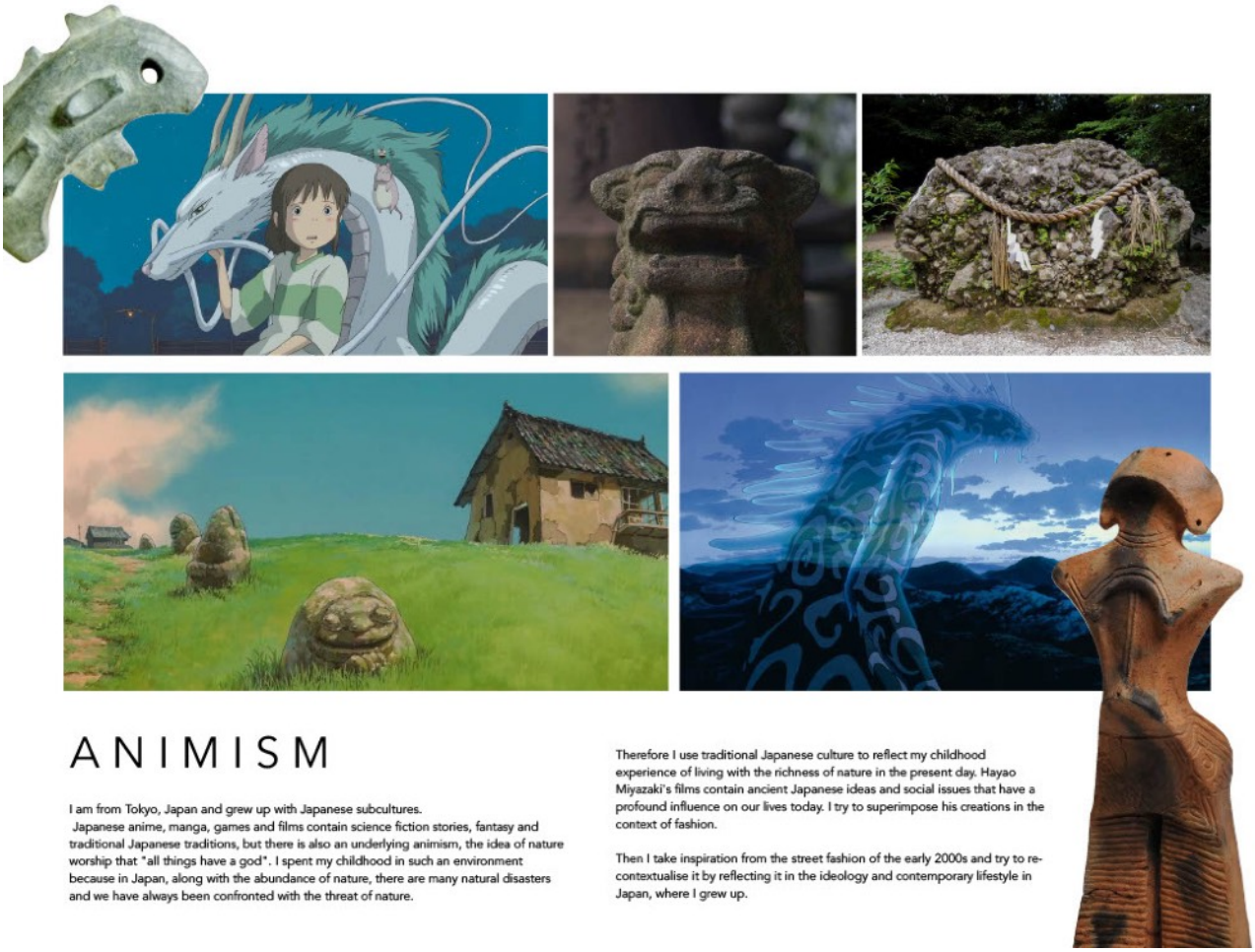
- 国際ファッション専門職大学: ファッションクリエイション学科
- 2023年卒業生: 浜名悠
- 留学先: イギリス
- 大学名: Central Saint Martins
- コース名: MA Fashion Womenswear (修士号/大学院)

第7回目校費留学レポート目次

- Pre-Collection

Pre-Collection

2024. 5. 31



自分が住んでいるハックニーは、街の中にもたくさんの樹木や動物たちで溢れてる自然豊かな場所です。その自然のエネルギーには毎日驚かされます。自分のスクリーンタイムはとても高いのでその感覚はデジタルライフの反動のようにも感じています。

何かと幼少期から絵を描く時は風景画や生き物ばかりを描いており、ファッションデザインにおいても自然物からインスピレーションを得るなど、自分はこの地球の神秘にとても好奇心があるのだと思います。そういった経験から自身のアイデンティティの深掘りのために、自分は太古の人類が信じていて今なお、特に日本でも引き継がれるアニミズムという思想を研究したいと思いました。

アニミズム（animism）は、自然物や無生物に霊や意識（魂）が宿るとする信仰のことを指します。ラテン語で「霊魂」を意味するアニマ”anima” から作られた用語です。19世紀後半、イギリスの人類学者、エドワード・バーネット・タイラーが著書『原始文化』の中で使用して定着させたそうです。この考え方は、多くの先住民族や古代文化に見られる世界観であり、自然や物質全てに生命や魂が宿ると考えることから、それらを尊重し、擬人化もしくは神聖視するという特徴があります。この信仰は「八百万の神（やおよろずのかみ）」として知られ、森、川、山、道具、家など、すべてのものに神が宿るという考え方です。母親の話だと、小さい頃の自分は春になると玄関で落ちているたくさんの桜の花びらを観て「桜のお客さんだよ！」と言っていたそうです。他にも私たちが当たり前のように言っている「いただきます」や、神社へのお参り、お墓参りなど自分と関わりのある考え方として国際ファッション専門職大学にいたころから着目していた概念です。

2024. 5. 31

幼少期から自分が観て育った日本のアニメでは、このアニミズム的な思考がしばしば描かれています。例えば、スタジオジブリ宮崎駿さんの作品『千と千尋の神隠し』『 もののけ姫』や『 となりのトトロ 』では、自然や精霊が重要な役割を果たし、自然と人間との共生をテーマにしています。他にもゴジラや、ポケモン、ドラえもんなどのSF物語では人間と関わる様々なクリーチャーたちが日本から生まれました。

そのアニミズムが反映されている服は何だろうと考えた時に真っ先に浮かんだものが日本の伝統衣装、着物でした。着物に描かれる生物の絵柄や自然物から発展した伝統模様、染物から、または兜などの造形まで、その表現のバラエティの多さとそれらを身に纏うという文化はまさに自然災害や四季の変化も含めて昔から豊かな自然環境が生み出した産物だと思いました。
V&Aミュージアムや大英博物館に行き、そのような日本が築いてきた文化の工芸品や衣服、数々のプロダクトも観察していました。ロンドンにしばらく滞在して、自分が育った日本のカルチャーは神秘的で、ユニークなものだったと母国を離れて感じることが多いです。

そしてこの考えは、自然との調和を重んじる日本の伝統的な価値観でありエコロジカルな思想やサステナブルな社会構築に向けたヒントがあると思います。
アニミズムは、国際社会における新たなパラダイムとして機能し得る可能性があるのではないかと。

アイデンティティの探求とともに自分が創造する世界はどのようなカテゴリーのファッションなのかも考えました。両親の影響もあり、2000年代初頭のストリートファッションが自分のファッションへの興味が始まったきっかけであり、身につけているものは時代と共にプロポーションやスタイルに多少の変化はあっても今も大好きなファッションに変わりはありません。主にスポーツウェアやワークウェア、ミリタリーなどが含まれる機能的でマスキュリンなスタイルです。エネルギッシュで野生的でありながらチルなペルソナです。自分が育った環境の日本文化と思想をストリートウェアに昇華したらどうかという問いかけからコレクションをスタートさせました。

今回参考にした作品は自身が影響を受けて育ってきた宮崎駿さんによる映画作品です。日本の古来の思想や社会問題を現代的なアニメというメディアで表現していますが、古来のものを現代化する意味で自分は彼のクリエイションをファッションの文脈において重ねる試みを行いました。

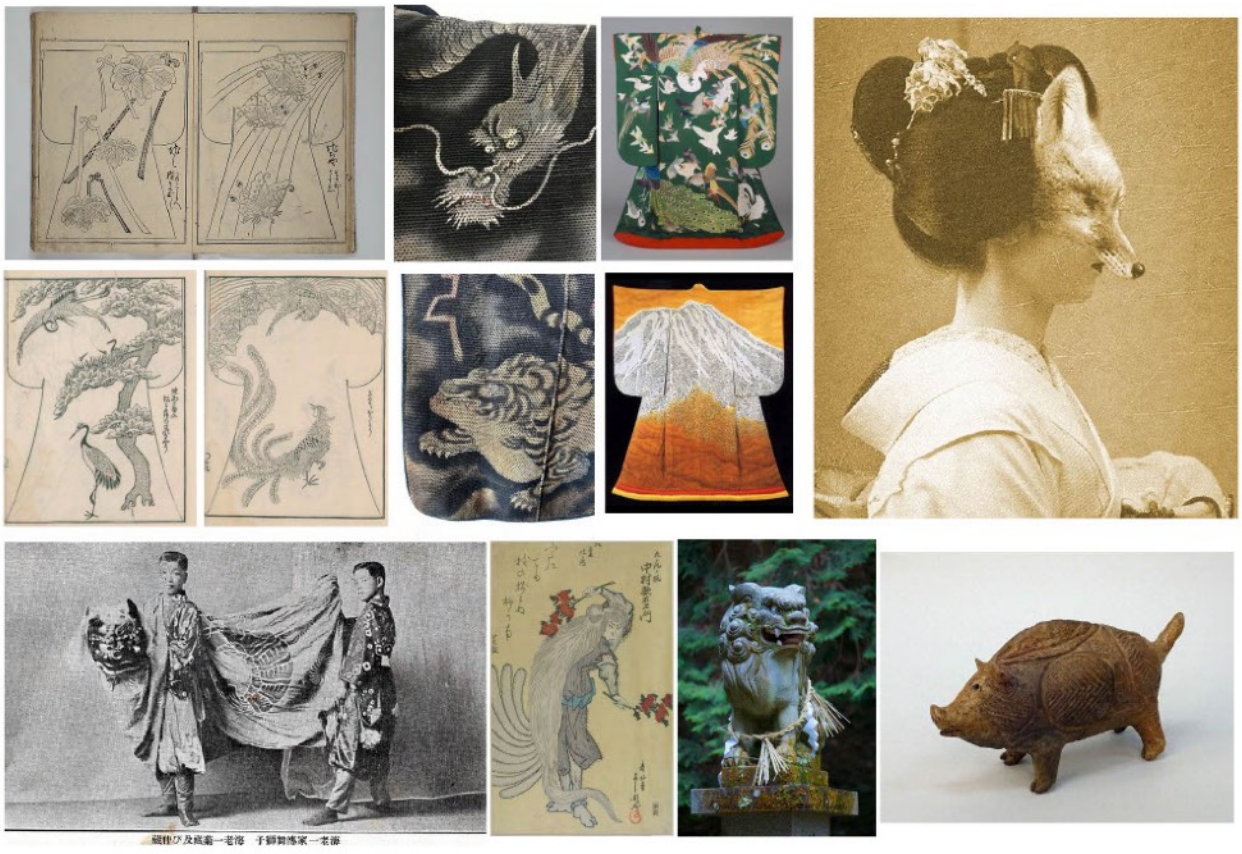
教授からの全体レクチャーでは多くの人がファッションリサーチが足りないという指摘があったため、服の裏地や布の処理、機能などあらゆる細部ををより観察し細かい部分までアプローチが届いているか、見直しました。また自分は制作が思い通りにいかない事ばかりで悩んでいましたが、困った時は、シンプルに考えろということで、何の服が好きなのか、どんな素材感が好きなのか、どんなスタイルが好きなのか、そこに戻れというアドバイスもありました。このプレコレクションのブリーフでは実験という要素が大きかったため、何か新しい発見があるのではないかとそこから離れてしまう時が多々あったかのように自分は感じています。

コレクションは、まだまだ自身の思い描くものにはほど遠く、服の制作中に様々な技術的問題にぶつかったため、今一度見直す必要があるように思いました。素材の調達先からサスティナブルの技術的アプローチ、衣服の制作方法に対しての問いかけなど、解決しなければならない問題が自身のクリエイションにまだまだ多いため来月からはサマーホリデーで学校はないのですがどんどん制作を進めて卒業制作に繋がるものを新学期の始まりまでに準備していければと思っています。

The Tree Spirit ("Princess Mononoke")
1997
Studio Ghibli

The River Spirit ("Spirited Away")
2001
Studio Ghibli

2024. 5. 31

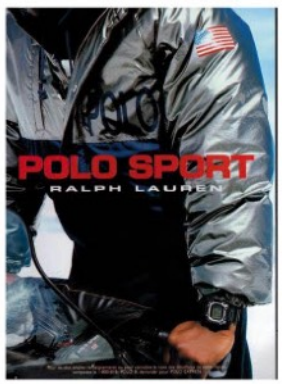


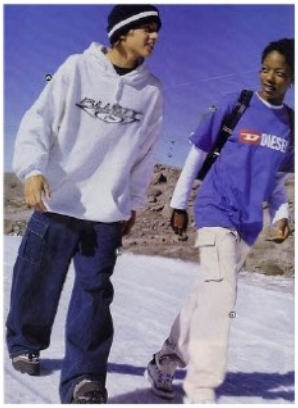
2024. 5. 31

Colour pallet.

SOUTHPOLE
SPORTING GEAR

TALKING ABOUT FASHION
NIGO
東京に国境を感じていたときだったんで…

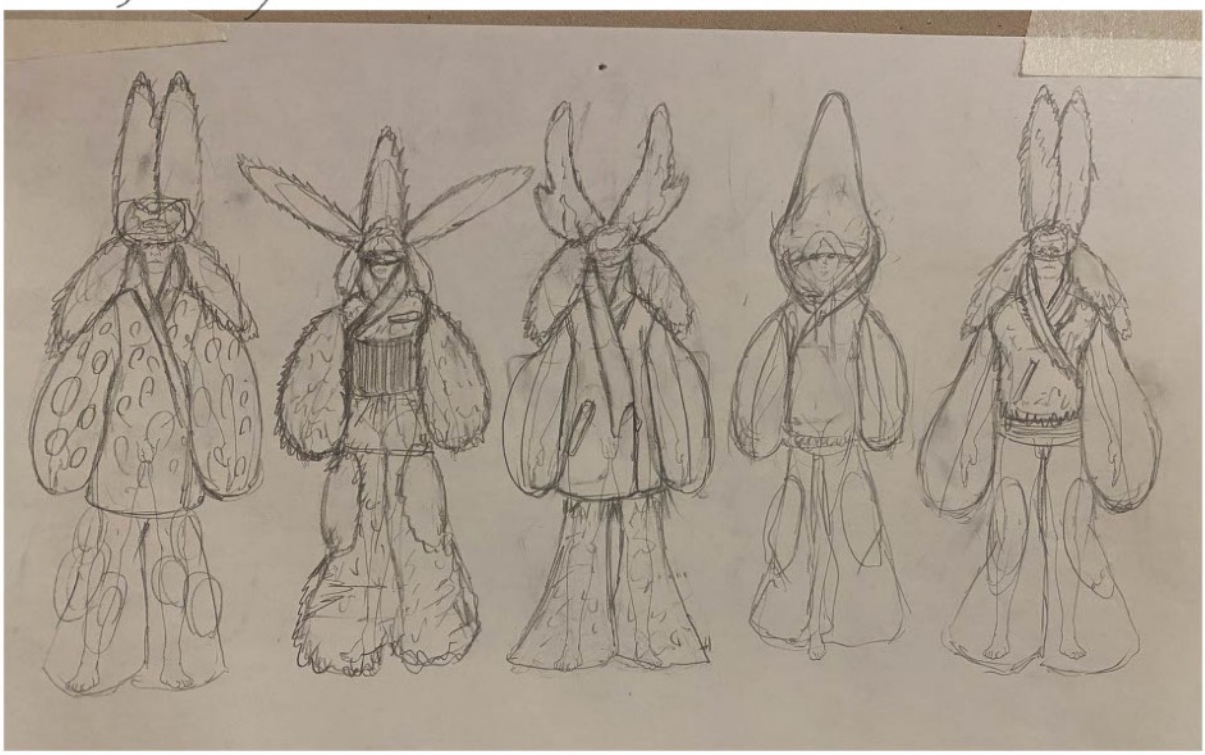

POLO SPORT
RALPH LAUREN



PELLE PELLE
THE LOOK
marc buchanan
pelle pelle

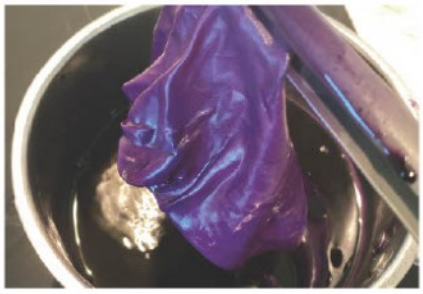
2024. 5. 31

First stage drawing.



Creature Sashiko -1

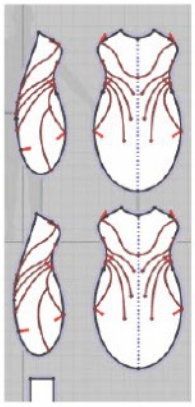
Dyeing experiencz



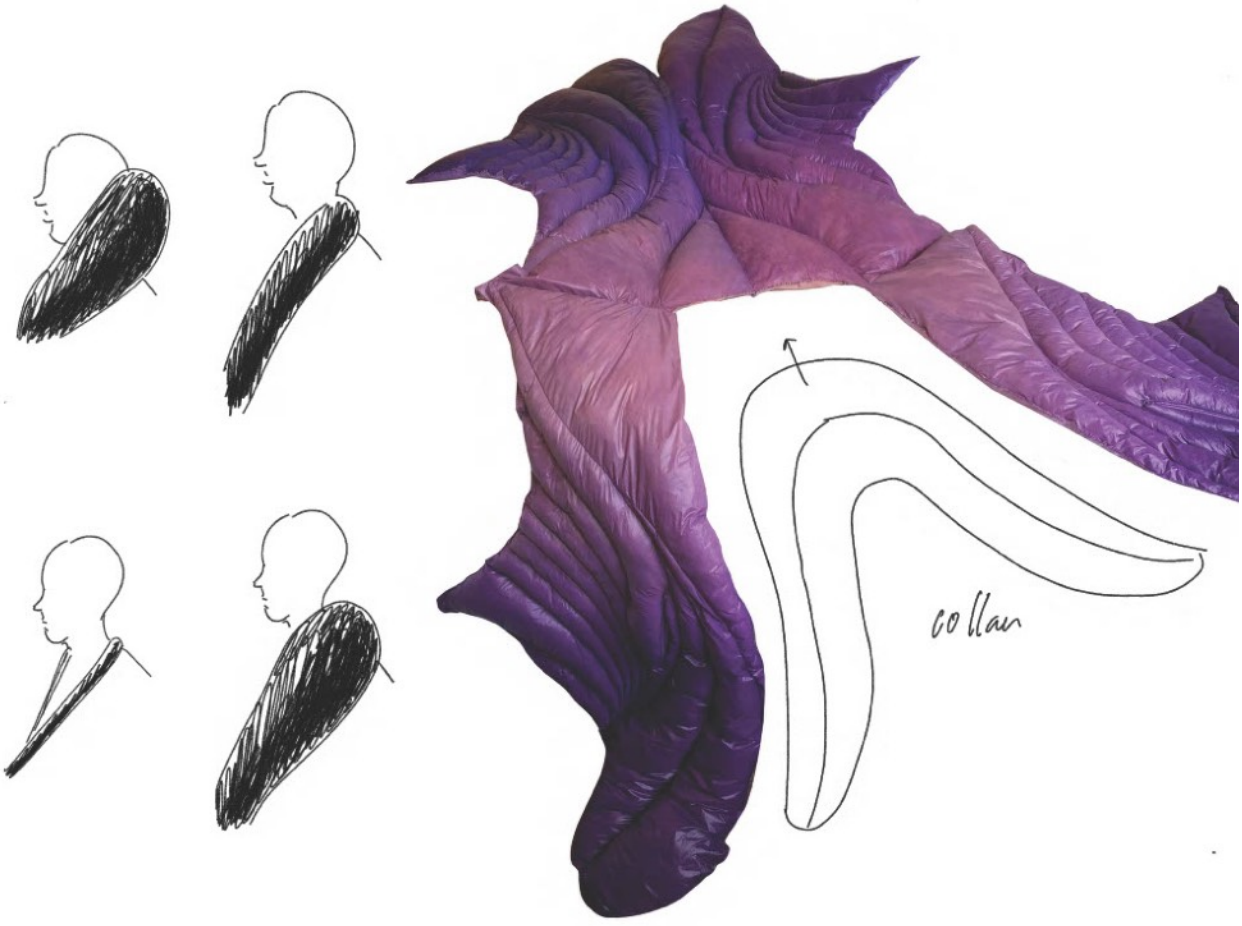
2024. 5. 31

Black thick woolen cloth inlaid / Tokyo National Museum

Bias tape (elastic)



2024. 5. 31



2024. 5. 31

2024. 5. 31

今月を振り返って

今月にあったプレコレクションは今まで一番重要なプロジェクトにも関わらず、思い通りに制作が進まなかったので精神的にとても苦しい日が多々ありました。自分のコレクションがしっかりと最後着地できるのか不安でいっぱいですがこれからも身体を動かしていって毎日進歩し続けられたらと思っています。

以上、５月分のレポートとさせていただきます。